
令和3年度 事業計画書

I. 事業計画について（はじめに）	P.60
II. 各機関の事業計画	P.61
1 女子大学・大学院	P.61
2 中学校高等学校	P.64
3 法人事務局	P.67
4 機関協働の取り組み	P.68
5 収益事業	P.69
III. 施設設備・情報環境整備関係	P.70
IV. 財務計画	P.72

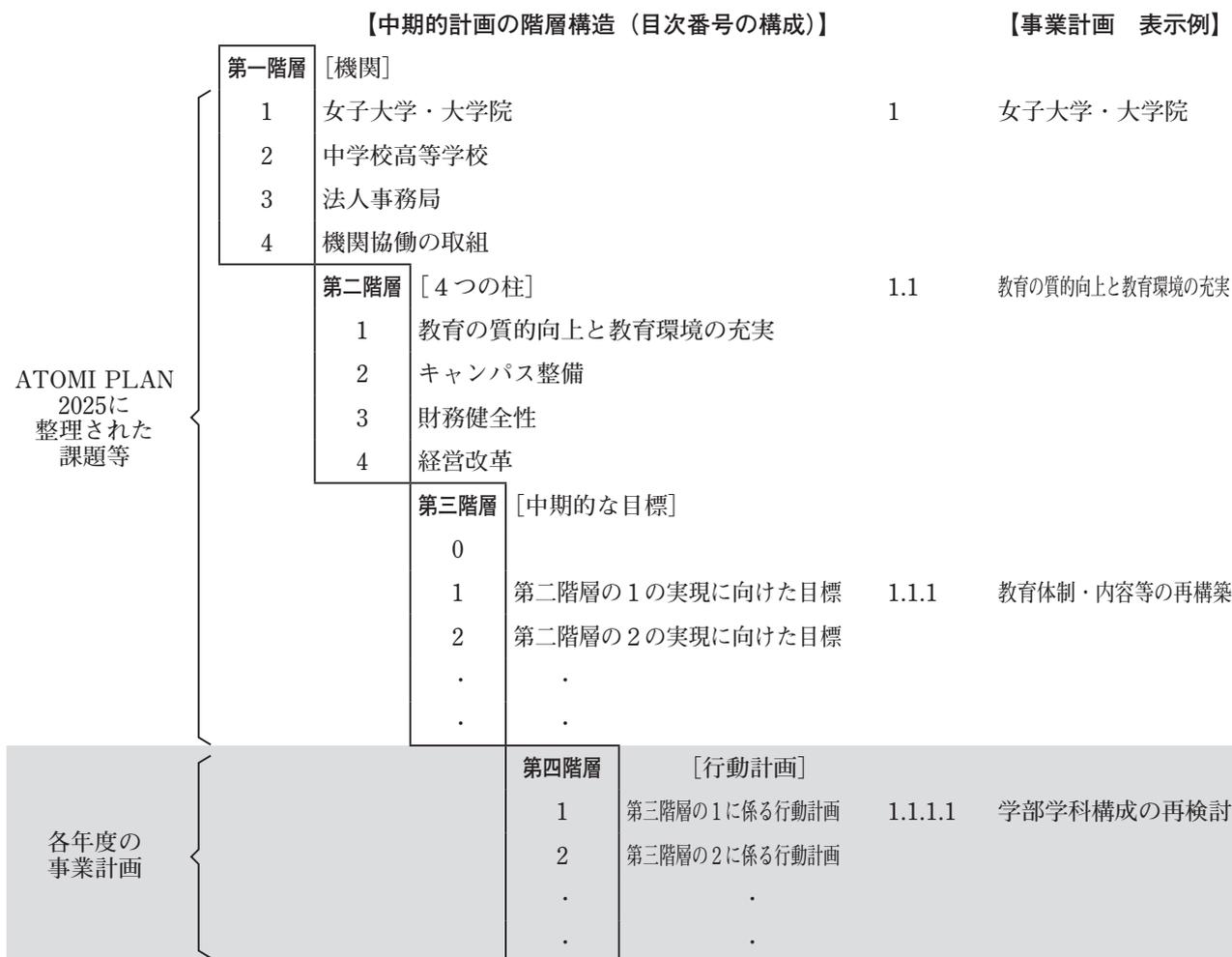
I. 事業計画について（はじめに）

学校法人跡見学園（以下「学園」という。）は、令和2（2020）年2月、改正私立学校法に基づき、事業に関する中期的な計画として「ATOMI PLAN 2025」を作成した。この計画は、令和2（2020）年度からの5年間を対象に、学園のミッションとビジョンのもと取り組むべき課題を提示し、全教職員が共有し協働して学園運営を推進するためのツールである。ミッションとは「豊かな教養と高い人格をもち、時代の要請に応える女性を育成し、もって社会に貢献する」ことであり、ビジョンは「夢を実現するフィールドを提供する」こととしている。また取り組む課題は、1）キャンパス整備、2）教育の質的向上と教育環境の整備、3）財務健全性、4）働き方改革と整理した。学園の各機関、全教職員は、この課題の解決をめざす計画を策定し、その実現を通じ学園の維持発展に努めている。

同じく私立学校法に基づき年度ごとに作成する学園の事業計画は、上記中期的計画の各年度アクションプランと位置付けている。「ATOMI PLAN 2025」に既に整理された四つの課題への取り組みとして、機関別、年度別に策定された計画が各年度事業計画である。

学園の令和3（2021）年度事業計画は、「ATOMI PLAN 2025」の2年度目にあたるものであり、機関別に次頁以降に記載のとおり作成した。

なお、「ATOMI PLAN 2025」の各課題・計画の階層構造と各年度事業計画との関係は下図のとおりであり、令和3（2021）年度事業計画は下図第四階層にあたる。



Ⅱ. 各機関の事業計画

1 女子大学・大学院

大学を巡る状況は、コロナウイルスの蔓延とそれに伴う非常事態宣言、大学教育が対面からオンラインへ移行することにより大きく変化した。従来の大学教育の課題、つまり教育の大衆化、社会の情報化、そして経済のグローバル化への対応だけでなく、新しくオンライン教育への対応といった課題への対応が求められている。

令和3（2021）年度の女子大学・大学院（以下「本学」という。）の事業計画は、従来からの1）建学の精神をどのようにディプロマポリシーで表現し具体化するのか、2）教育の質保証について教育と学生満足を検証するどのような制度を確立すべきなのか、といった課題に加え、3）対面とオンライン教育とをどのように両立、実施することが可能なのか、そして教員のFDを通じ教授法のレベルアップをどのように可能にするのかが問われている。今後は、オンライン教育への対応が大学の魅力、ブランド力、そして競争力の源泉の一つになっていくものと考えている。地域との交流、地域貢献、社会貢献活動の展開、海外の協定校との交流拡大、強化といった課題も、すべてオンラインを活用してどのような教育、研究活動が可能か、といった視点から再検討しなければならない。

コロナウイルスの蔓延が、大学の学年暦、カリキュラムの実施にどのような形で影響していくのか、未だ判断はしにくいだが、今後、本学は文部科学省による各種通知をふまえ、「授業は対面で行い、教員は教場で授業を行うことを原則」としつつ、感染状況に応じた対応に努め、学生と社会に対する大学の責任を果たすべく努力したい。

1.1 教育の質的向上と教育環境の充実

1.1.1 教育体制・内容等の再構築

1.1.1.1 学部学科構成の再検討

- ① 教職課程の再編と学内議論の活発化
- ② オンライン教育への対応と教学再編

1.1.1.2 時代に即応したカリキュラムの実現

- ① 4学部8学科体制教育課程の学年進行
- ② 開設第4年度を迎える心理学部教育課程の完遂
- ③ 令和4年度教育課程の検討（各学部と全学共通科目を含む）
- ④ 大学設置基準に基づく各学部主要学科目の検討（令和4年度実施新教育課程と連携）
- ⑤ 学部専門科目における教養教育の充実
- ⑥ オンライン教育充実と教員FDの展開

1.1.1.3 広範な空間で活躍する人材の育成（外国語教育の深化）

- ① 外国語・国際交流部会の活動強化（各種外国語能力試験の活用による実力アップ支援、カリキュラムとの連動、海外協定校への中・長期留学の実現と単位認定制度の適用）、外国語・国際交流センター設立の検討
- ② 海外語学研修の充実、中・長期留学の推進
- ③ 海外協力校の拡大、とりわけアジア諸国における諸大学との交流実質化
- ④ オンラインによる海外語学研修の充実（提携大学プログラムへの参加支援）

1.1.1.4 広範な空間で活躍する人材の育成（地域連携の深化）

- ① 地域交流センターの活動強化

- ② 地域自治体との交流協定に基づく教育・研究活動の活性化
- ③ 企業との交流協定に基づく教育・研究活動の活性化
- ④ 地域大学・自治体・企業との協定に基づくプラットフォームでの教育・研究活動及び地域活性化の推進
- ⑤ 大学以外の団体との交流（日本語学校、NGO/NPO）
- ⑥ 自治体との提携
 - ア. 東京都文京区 イ. 埼玉県和光市 ウ. 埼玉県新座市 エ. 埼玉県朝霞市
 - オ. 群馬県長野原町 カ. 福島県会津若松市 キ. 長野県 ク. 秋田県男鹿市
 - ケ. 山形県西川町 コ. 埼玉県三郷市 サ. 富山県立山町
 - シ. 公益財団法人和光市文化振興公社 ス. 千葉県いすみ市 セ. 静岡県東伊豆町
- ⑦ 企業業務提携
 - ア. 株式会社ジャルパック イ. 公益財団法人角川文化振興財団 ウ. エーザイ株式会社
- ⑧ NGO/NPOとの連携
 - ア. Table for Two との連携推進

1.1.1.5 公開講座の充実と社会人向け講座の検討

- ① オンライン講座開講の可能性の検討
- ② 文京区・新座市と形成するプラットフォームでの連携強化

1.1.1.6 大学院教育の在り方の検討

- ① 心理学研究科（修士課程）設立の検討
- ② 人文科学研究科（修士課程）充実と志願者増施策
- ③ マネジメント研究科の充実と志願者増への施策

1.1.2 質的保証制度の構築

1.1.2.1 恒常的検証体制の構築

- ① IR (Institutional Research) による質的保証制度の検証
- ② IR (Institutional Research) における政策提言能力の向上

1.1.2.2 自己点検・評価を通じた教育研究の改善

- ① GPAの活用、授業評価アンケートの活用、教員評価制度の導入（再構築）、全科目での出席状況調査の実施、「学習と学生生活アンケート」の活用など
- ② 自己点検・評価を通じた教育の内部質保証への取組み
 - 理念・目的・建学の精神 ● PDCAサイクル
 - 恒常的検証体制 ● ガバナンス、コンプライアンス、etc.
- ③ 学内の特別研究費等の助成金配分改革
- ④ 跡見ブランド向上のための共同研究プロジェクトの活動
- ⑤ 総合研究機構設立の検討
- ⑥ 教員選考規程と教員選考資格審査基準の検討

1.1.2.3 学修成果を測る仕組みの構築

- ① 教育の質に関する客観的指標の導入と活用促進（5ヶ年計画の3年目）

1.1.3 キャリア教育の充実

1.1.3.1 初年次からの全学的支援体制の充実

- ① 就職部をキャリアセンターに発展させる準備

- ② キャリアデザイン教育の重視
- ③ オンラインによる支援の継続、及び効果的な実施

1.1.3.2 ポートフォリオを活用した学生のキャリア形成支援

- ① 求職登録等（進路希望登録）デジタル化本格始動
- ② アセスメントテスト結果の活用
- ③ 各種資格（公務員・教員含む）の合格率向上

1.1.4 学生・生徒生活支援

1.1.4.1 学生・生徒生活支援の充実

- ① 高等教育修学支援新制度の着実な実施
- ② 学生サポートセンターの活動強化（学生支援室利用学生数や多様化への支援、退学防止対策）
- ③ キャンパスライフ支援（目に見えないカリキュラムの充実）のための方針実施
- ④ ウィズコロナ、アフターコロナに向けたオンラインでの実施による効率性、利便性の検討

1.1.4.2 課外活動支援の充実

- ① ボランティアセンター設立の検討

1.2 キャンパス整備

1.2.1 デュアルキャンパス体制再構築

1.2.1.1 「文京キャンパスメイン化構想」の構築

- ① 「中期計画」に対応した議論の推進

1.2.1.2 新座キャンパスのリフレッシュ化計画

- ① 1号館の改装案の検討

1.2.2 文京キャンパス・新座キャンパス整備計画

1.2.2.1 ラーニング・コモンズの拡大

- ① アクティブ・ラーニング教室の整備（新座）

1.2.2.2 ICT環境の整備・充実

- ① 新座ICT環境整備の推進
- ② ポータルシステム更新による出席管理厳格化とポートフォリオ導入
- ③ 学生メールの現行システムからOFFICE 365メールへの移行
- ④ 学生のPC必携化に伴うICT環境の更なる整備の検討
- ⑤ 学内のペーパーレスシステムの検討
- ⑥ クラウドサービスの効果的利用の検討

1.3 財務健全化

1.3.1 安定的生徒・学生数の確保

1.3.1.1 安定的学生数の確保・維持

- ① 偏差値向上をめざす学生募集と定着化の追求
- ② 入学定員安定的確保をめざす施設の充実
- ③ 高大接続改革に対応した入試改革の推進

1.3.2 外部資金導入政策

1.3.2.1 補助金の計画的獲得

- ① 公的研究費獲得の日常的支援

1.4 経営改革

1.4.1 組織計画

1.4.1.1 戦略的広報活動による学生募集の強化

- ① 広報室の活動強化
- ② 跡見ブランドの積極的展開
- ③ 学生確保に向けたメディア発信媒体の重点化
- ④ DXの導入による広報・入試業務の戦略的対応
- ⑤ 教育、研究における情報の収集と魅力の発信
- ⑥ 入試課と広報室との連携強化

1.4.2 人事計画

1.4.2.1 FD・SD研修の充実

- ① 教職協働の推進と大学各種委員会活動の活性化

1.4.2.2 業務効率化の促進とワークライフバランスの充実

- ① 情報メディアセンターの機能改革とシステム能力の向上

2 中学校高等学校

教育ビジョン

確かな美意識のもとに新たな価値を生み出し、周りを幸せにする女性の育成

- ・「しなやかさ」 確かな美意識を持ち、常に自分らしくしなやかに生きる女性
- ・「創造」 自己肯定感のもとに豊かな発想力で創造的に問題を解決する女性
- ・「協働」 他者を尊重し、高いコミュニケーション力をもって、社会に貢献する女性

教職員ビジョン

組織の目標達成のために、生徒の成長を第一に考え、自らも成長のためのチャレンジを怠らない教職員であること

- ・生徒のために組織一丸となって、取り組むことができる教職員
- ・跡見学園の教職員としての自覚を持ち、互いの力を認め、高めあうことができる教職員
- ・自らの専門分野を探究しながら、広い視野でものごとを考えることができる教職員

学校組織ビジョン

伝統や理念を大切にしながらも、時代のニーズに合わせて変化し続ける学校であること

- ・生徒の夢を育み、その生徒にとって最高の進路を実現する学校
- ・明るく活気があり、時代をリードする学校
- ・授業においても学校生活においても生徒が安心して通える学校

上記ビジョン達成のため、「ATOMI PLAN 2025」に基づき、事業計画を次のとおりとする。

2.1 教育の質的向上と教育環境の充実

2.1.1 体制・内容等の再構築

2.1.1.1 ICTを活用した授業運営手法の開発・習熟

- ① 教職員の情報リテラシー向上のための研修を継続実施
- ② 教科・学年ごとのICT活用手法に係るICT支援員とも協働した情報共有化
- ③ 生徒の身体的負担や環境的負担に配慮した持続可能iPad利用方法の検討
- ④ MetaMoJi、google classroom、Zoomなどの活用による双方向性を確保した授業展開

2.1.1.2 学力向上のための授業の実践と自律学習の促進

- ① 授業診断を継続実施し、教員の授業力向上、生徒の授業満足度向上を目指す
- ② iPadの全学年配布により、家庭学習課題の配信と回収点検を工夫する
- ③ classi、スコラ手帳活用により、学習時間の自己管理を促進する
- ④ MetaMoJi、google classroom、Zoomなどを利用した探究学習の機会を増やし、生徒の発信力向上に努める

2.1.1.3 国語力を基礎とする語学教育の充実

- ① 読書習慣や古典を通じ日本人としての豊かな教養や正しい日本語の使い方を習得させる
- ② 日本漢字能力検定や実用英語技能検定について学年単位で最低目標級を設定、取得率を把握するとともに上位級取得に向け指導強化する
- ③ 本校独自の文化交流を目的にした海外研修の維持発展と、英語力向上に特化した語学研修の機会拡大を目指す

<これまでの実績>

中学生 ニュージーランド体験留学（令和2（2020）年度は中止）

高校生 オーストラリア夏期海外語学研修（令和2（2020）年度は中止）

高校生 イギリス スターリング大学（令和2（2020）年度は中止）

中高生 河口湖英語国内留学（冬休み、春休みに実施）

中高生 フィリピン セブ島語学研修（令和2（2020）年度は中止）

高校生 ターム留学（オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ）（令和2（2020）年度は中止）

- ④ 生徒のプレゼンテーションの機会を増やし、論理的な自己表現を訓練する
- ⑤ オンライン英会話を中学1年～3年に週1時間導入し、英語でのコミュニケーション力の向上を目指す

2.1.1.4 探究型学習の実戦

- ① 跡見流りベラルアーツの実施
- ② サイエンス探究の実施
- ③ 本物の美の探求に関する課外活動について、授業時間を確保した実施の検討
- ④ 実験、実習の更なる充実
- ⑤ 令和4（2022）年度にスタートするSDGs探究旅行の詳細の立案と下見の実施
- ⑥ 道徳の年間計画と継続指導
- ⑦ 探究型学習の成果のポートフォリオ化

2.1.1.5 進学支援の充実

生徒が望む進路への進学率100%を実現するために

- ① 外部模試の厳選実施と成績分析による各学年の到達目標の達成
- ② 指定校などの有効活用が可能な評定平均値の底上げ
- ③ 海外大学協定校の提携を利用した海外進学率の拡大

- ④ 成績上位層の一般受験・国公立受験へのモチベーション向上と指導強化のために補習・講習や放課後プログラムを精選し、充実させる
- ⑤ 女子大学への優先入学制度の活用強化

2.1.2 学生・生徒生活支援

2.1.2.1 生活指導の徹底と課外活動の充実

- ① 生徒指導について教員間で足並みをそろえ、生活上のルールを生徒・保護者に守らせる
特にICTモラルや日常マナー
- ② 生徒の情報を原則的に保護者と共有し連携強化をはかる
- ③ ガイドラインに則った適切なクラブ活動の実施を心がける

2.2 キャンパス整備

2.2.1 文京キャンパス整備計画

2.2.1.1 ICT環境の整備・充実

- ① iPadを全生徒に配布し、教材配信、アンケート実施、ポートフォリオの構築などについて、教育のICT化をはかる
- ② 大型提示装置（スクリーン、プロジェクターなど）を普通教室に配置し、授業のビジュアル化を促進する
- ③ 教育現場のペーパーレス化をはかる
- ④ マルチルーム（旧LL教室）の活用と活用事例について情報を共有する

2.2.1.2 学習・生活環境等の整備

- ① 自習室や面談室、カフェテリアを備えた新棟建設について、150周年記念事業として立案することの可能性を探る
- ② 生活安全上の配慮から各階への防犯カメラ設置を検討する
- ③ 校舎の老朽化部分を確認し補修について検討する
- ④ 段階的な校内のバリアフリー化について検討する
- ⑤ いじめやハラスメント防止の徹底に努め、アンケートに基づく問題点の抽出と結果の開示、また防止対策委員会の周知を行い、相談しやすい環境作りをする

2.3 財務健全性

2.3.1 安定的生徒・学生数の確保

2.3.1.1 安定的生徒数の確保

入学定員270名（7クラス）の充足を目指す。

今後は12才人口が減少するため、10年先の学校存続をめざし、学校規模の適正化（ダウンサイズ化）を検討する

2.4 経営改革

2.4.1 組織計画

2.4.1.1 戦略的広報活動による生徒募集の強化

- ① 志願者数1,500名超（2020年度入試：1,440名）達成のための戦略的広報を行い、オンラインも含め学校説明会来場者数（アクセス数）及び志願者数の増加を図る
- ② 塾との良好な関係を更に強化する
- ③ 塾情報リサーチ、アンケート実施など外部に委託する部分と、塾訪問、個別相談など教員が行う部分のバランスをはかる

2.4.1.2 諸規程の整備（法人と協働）

- ① 中学校高等学校関連規程を確認し、時間経過や社会変化に応じ見直しが必要なものを抽出する
- ② 学園としての統一性と中学校高等学校の独自性を活かす体系化をめざす

2.4.1.3 教職の役割分担の見直しと連携強化

- ① 教員集団の年齢構成上のアンバランスを是正すべく20代、30代専任教諭の計画的採用を継続する
- ② 有能な非常勤講師の確保のため、他校掛持ちせずに済む担当時間数を実現する
- ③ 定年年齢を過ぎた先生方のネットワークを構築し緊急時に備える
- ④ クラブ支援員や入試広報業務の専門職員配置など、教職員の働き方改革を見据えた人材配置を検討する

3 法人事務局

運営基本方針

設置する女子大学及び中学校高等学校の運営サポートを通じた女子教育への貢献を旨とし、時代の要請に応えつつ安定的かつ継続的な発展を担保できるようガバナンス体制及び内部統制の仕組み整備に努める。併せて、この方針遂行の前提たる組織力（職員力）を高めるため人材育成に注力する。

また中期計画並びに中期計画をふまえた各年度事業計画への財務面からの統制を行い、財務健全性を保ちつつ計画の実効性を担保する。

3.2 キャンパス整備

3.2.1 総合計画

3.2.1.1 中期計画に基づくキャンパス計画の推進

- ① 新座キャンパスのリフレッシュ化計画の推進
- ② 学生会館（仮称）の建築推進及び新座1号館リニューアルの検討
- ③ 文京キャンパスメイン化構想の検証
- ④ ICT環境整備計画の再検証

3.3.1.2 安心・安全な環境の整備

- ① 耐震基準未満の施設・設備の建替え
クラブハウス、合宿舎を取り壊し、学生会館（仮称）を建設
- ② 耐震化率100%の早期実現に向けた耐震化計画の検証及び作成
- ③ 大規模自然災害等による重要業務の中断を軽減するためBCPの検討

3.3 財務健全性

3.3.1 寄付金計画

3.3.1.1 寄付金募集

- ① 創立150周年記念募金（寄付金）に係る寄付金募集施策の実行
- ② 募集方法（払い込みルート、決済方法）の多様化
- ③ 寄付広報の施策実施

3.3.2 外部資金導入政策

3.3.2.1 新規収益事業の検討

- ① 事業機会の拡大検討

3.4 経営改革

3.4.1 組織計画

3.4.1.1 ガバナンス体制の検討・強化

- ① ガバナンス体制の再構築と内部統制見直し検討
- ② 中期計画の実効性担保の仕組みづくり

3.4.1.2 諸規程の整備

- ① 規程系統樹の作成
- ② 諸規程の管理規程の策定

3.4.2 人事計画

3.4.2.1 人事制度の再構築

- ① 従来の人事評価制度（目標管理、職務行動評価、役割達成度評価）の再開
- ② 人事評価結果を処遇に反映させる新たな人事評価制度・給与制度の設計

3.4.2.2 研修による自己研鑽の機会の充実（業務のスペシャリスト育成）

- ① 外部研修（日本能率協会主催SDフォーラム、日本私立大学連盟主催研修等）への参加の促進
- ② 年齢別、職能別やテーマ別等人事研修プログラムの実施による業務推進力向上
- ③ 教職協働を推進するための体系的な研修制度の検討

3.4.2.3 業務効率化の促進とワークライフバランスの充実

- ① 業務の進め方の見直しと個々の意識改革促進による業務のスリム化、効率化を実現し、長時間労働の削減とワークライフバランスの充実及び業務場所の多様化による事業継続性の向上を目指す
- ② 時差出勤導入による勤務時間の効率化
- ③ テレワークの検討
- ④ ICTによる事務処理システムの改善による業務効率化とペーパーレス化の促進等学内書類のハンコレス化の検討

4 機関協働の取り組み

4.1 教育の質的向上と教育環境の充実

4.1.0.1 中高大の連携体制の拡大

- ① 年2回実施する中高大連携会議を通じ情報や意見の交換を積極的に行い、各機関に有意義な提案の迅速な実施をめざす
- ② 施設共同利用
大学施設（図書館、食堂、体育館、教室、ブロッサムホール）、中高施設（プール、記念講堂など）の利用拡大を検討する
- ③ 人的交流
中高大学間で出張授業や教員採用の人材紹介（人的交流）を活性化する

4.3.1 中期資金計画

4.3.1.1 設備投資計画の策定

- ① 主要な建物設備や大規模修繕案件に関する中長期計画の見直しを行う
- ② 新座キャンパスのリフレッシュ化計画の概算費用算出（学生会館（仮称）建築及び新座1号館リニューアル）

- ③ 高等教育・学術研究機関における情報通信技術（ICT）を利用した教育・研究・経営の高度化に応じたICT環境の充実をめざすアクティブラーニング用設備、AV設備の改修等環境整備を進める
- ④ 良好な教育環境維持をめざし施設の改修・建替えを適切なタイミングで実施、中期的な減価償却費の分析や経常予算における教育研究経費比率の見直し、補助金等の収入確保を積極的に行い、健全な財務体質の維持に努める

4.3.1.2 中期計画に基づく財務管理

- ① 経常収支差額比率5%超に向けた検討

4.3.2 単年度資金計画

4.3.2.1 財務計画PDCAサイクル構築

- ① 実績管理に基づく予算の集中と選択の実現

5 収益事業

収益事業部の事業は、中学校高等学校の購買部門としての販売事業（教材、学用品、スポーツ用品及びお弁当等）と不動産の賃貸事業（音羽学生寮…管理運営は㈱共立メンテナンス、小日向駐車場…管理運営は銀泉㈱）の二つが主なものである。

コロナ禍のもと、生徒達の出校制限等の影響による商品売上の大幅な減少が令和2（2020）年度同様に続くと予想されること、一方、支出面では令和3（2021）年度の特殊事情（事業部職員の退職金計上とそれに先立つ後任者先行配置）による人件費負担増が予定されることから、当該年度の収益環境は厳しい。

財政面で学園への安定的寄付が実現できるレベルの収益確保が求められる事業部であり、運営に係る見直しの時期にあるとの認識のもと、収益力強化の方策検討を進める。具体策として、販売チャネルの多様化、新規事業の検討、不動産の地代見直し等の検討を進める。

Ⅲ. 施設設備・情報環境整備関係

事業計画概要

- ・大学施設設備環境の整備

「新座キャンパスのリフレッシュ化計画」及び「安心・安全な環境の整備」に基づき、新座キャンパスのクラブハウス・合宿舎を学生会館（仮称）に改築する。

- ・中学校高等学校施設設備環境の整備

生徒用トイレリニューアル（3期目）として2・6階部分改修工事を行う

- ・大学情報環境の整備

令和3（2021）年度より実施予定のBYOD(Bring Your Own Device)をICT環境の中心に据え、これに伴う大量のトラフィックに対応する無線LANの拡充整備を引き続き行う。

またアフターコロナの社会を見据え、オンラインの利点を生かしてより効果的な授業を行えるよう一般教室AV機器の更新を行う。

- ・中学校高等学校情報環境の整備

令和2（2020）年度に実施した高等学校普通教室・選択教室のAV機器及びプロジェクタの更新に続き、中学校普通教室・選択教室、特別教室について同様の機器更新を行う。

また令和元（2019）年度普通教室等に整備した無線AP(アクセスポイント)設置について、更に教科指導等におけるICTの効果的な活用を実現するためAPの増設を行う。

*表中「大学」の中で、(新)は新座キャンパス、(文)は文京キャンパスを示す。

		項 目	内 容
大学	施設	(新) 2号館 (A工区) 外壁補修工事 (第1期)	竣工から27年経過し、外壁のクラックやタイルの浮きなどが懸念されるため2期計画の1期目として改修工事を行う。
		(新) 1号館 廊下補修工事 (1～3階)	廊下の雰囲気明るくなるよう、天井・壁面の塗装補修及び床シートの張替え工事を行う。
		(新) 第一受変電所～4号館 埋設高圧ケーブル交換	竣工から19年経過し、ケーブル長による損傷可能性や損傷時の影響が甚大なこと等を考慮して年次点検のタイミングに合せ引替を行う。
		(新) 第一受変電所 図書館システム更新 [5台]	製造から30年経過し、屋外の環境にあることも考慮して年次点検のタイミングに合わせ更新を行う。
		菊坂跡見塾 雨戸補修 (1階)	台風などの暴風時に飛来物から文化財保護を行うため、雨戸の建付けや不足箇所の整備を行う。
		(文) 3号館 空調機更新 ((RH-2南系統以外))	設置から29年経過し老朽化が進んでいるため、授業等へ長期の支障が生じないよう予防保全として更新する。
	情報	(新) KMH・体育館 強電盤設備改修工事	前回更新より20年経過し、老朽化が進んでおり機器故障が発生しても同等の部品交換が出来ないため、授業やイベント使用において支障が生じないよう更新する。
		(新) 個人研、(新) (文) 学科研、役職者他PC更新	前回更新より5年経過しHW保守年数を超過しており、PC自体の動作が重く業務に支障を来していることから中長期計画に基づき更新する。
		(新) 3号館 PC教室更新 [4教室]	前回更新より5年経過しHW保守年限を超過しており、更にAV機器は11年を経過していることから、AV設備を含むPC教室の全体的な更新を中長期計画に基づき行う。
		(新) 4号館 入試課OCR読取システム更新	入試業務に使用するOCRについて前回更新から6年を経過しHW保守年限を超過するため更新する。
(新) 図書館 視聴覚ホールAV設備更新		前回更新より9年経過しHW保守年数を超過しており、授業・各種講演会・研修会や他キャンパスへのオンライン映像配信に使用するため更新する。	
(文) 1号館 視聴覚教室AV設備更新	前回更新より20年経過しHW耐用年数を超過しており、授業・各種講演会・研修会や他キャンパスへのオンライン映像配信に使用するため更新する。		

		項 目	内 容
大学	情報	新) 1号館 赤外線マイクシステム更新 [7教室]	システムが老朽化しており、オンライン授業の増加による環境の整備が必要であることから更新する。
		新) 2号館 教室AV設備更新 [7教室]	前回更新より10年経過しHW保守年限を超過しており、不具合が発生した際の授業運営への影響を考慮し更新する。
		文) 1号館 無線AP増設 [4教室]	令和3(2021)年度からの分散授業への教室整備が必要であり、ICT環境の更なる充実を図るため無線LANのAPを増設する。
		新) 2・3号館 教室環境整備 [6教室]	既存アクティブラーニング環境が1演習室のみであり、分散授業も可能な大人数収容のアクティブラーニング環境が必要であることから、対応するAV機器や什器等の環境を整備する。
		新) 図書館 入退館システム更新	設置から10年経過しHW保守年限を超過しており、現状は手動開閉であることから、コロナ禍において新しい生活様式に対応する非接触開閉に取替更新する。
		奨学金システム(奨学金ソリューション)導入	奨学生情報の一元管理を実施するため、既存の学生支援システムと連携することができる奨学金システムを導入する。
中高	施設	特別教室側 黒板パネル・チェーン交換	設置から29年経過し、板面の劣化による板書性能の低下や上下可動式黒板チェーンの老朽化による作動不良などの懸念があるため、交換を行う。
		冷温水発生機(No.3) オーバーホール	空調熱源が更新から9年経過し、使用頻度の高い3号機で経年劣化が見られるため、予防保全としてオーバーホールを行う。
		生徒用トイレ改修工事(第3期)	竣工から30年経過し、内装等の陳腐化が進んでいるため、最近のニーズやトレンドに相応しいトイレに改修すると共に抗ウイルス部材等を使用し衛生環境を改善する。
		普通教室・S棟 教卓、教卓椅子更新	設置から30年経過し、老朽化による不具合を生じているため更新する。
	情報	パソコン実習室更新	前回更新より5年経過しHW保守年限を超過しており、ICT環境の更なる充実を図り、効果的な活用による主体的・協働的な学びや学力の向上を実現するため中長期計画に基づき更新する。
		教室AV機器(プロジェクタ)設置[中学20教室・特別教室]	前回更新より11年経過しHWの耐用年数を超過しており、教科指導等におけるICTの効果的な活用による主体的・協働的な学びや学力の向上を実現するため取替更新する。
		ワイヤレスマイク設備他更新	前回更新より11年経過しHWの耐用年数を超過しており、電波法改正により300MHz、800MHz帯のワイヤレスマイクは令和4(2022)11月までの使用期限のため取替更新する。
		無線AP増設	令和元(2019)年度に普通教室等の整備を行ったが、更なる教科指導等におけるICTの効果的な活用を実現するため校内に無線APの増設を行う。
		教職員PC更新	前回更新より5年経過しHW保守年限を超過しており、全生徒・全教員へのiPad導入により各教科においてICT教材の作成が増加していることから中長期計画に基づき更新する。
		図書館 レファレンスルーム改修	竣工当初から使用している什器が老朽化し、平成29(2017)年公示の学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な学び」実現のためアクティブラーニングに対応した設備を整備する。
法人	施設	法人棟 耐震診断	中期計画目標の「安心・安全な環境の整備」及び文科省の要請に基づき耐震化を進めるため、法人棟の耐震診断を行う。

150周年記念事業

		項 目	内 容
大学	施設	新) リフレッシュ計画[第1次]	中期計画目標の「新座Cリフレッシュ化計画」及び「安心・安全な環境の整備」に基づき、クラブハウスを合宿舎と集約し、多様な学生の利用にも資する学生会館(仮称)として建替を行う。

Ⅳ. 財務計画

令和3（2021）年度「収支予算書」策定の基本方針

令和3（2021）年度は、前年度のコロナ禍を起因し収支状況は悪化している認識のもと、以下のとおり令和元（2019）年度の実績内で策定し、基本的には抑制的なスタンスをとった。

【骨子】

- 1) 学生生徒等納付金（大学）は、中期経営計画の方針に沿った予算とし、入学定員充足比1.15倍で策定。退学者の見込みは今年度並みとしている。
- 2) 学生生徒等納付金（中高）は、入学予定者数249名で策定（定員270名）。
- 3) 人件費は、期末手当を令和2年度の減額後の比率で計上。
- 4) 機動的な政策執行に対応するため、「新規戦略枠」50百万円を設定。
- 5) 周年記念事業関連費用として、10百万円計上。
- 6) 財務健全性を維持向上のため、経常収支差額比率5%水準を志向。
- 7) 特定資産積立については、減価償却額予定709百万円に見合った額として「建物償却引当特定資産400百万円」、「法人維持特定資産300百万円」の合計700百万円を計上。

【設備面】

- ・150周年記念事業の一つとして、新座キャンパスリフレッシュ化計画〔第1次〕：クラブハウス・合宿舎改築計画を優先課題とし、広く学生が集う学生会館（仮称）のイメージで設計施工を行う。（他の設備計画については抑制気味にしている。）
- ・システム投資については、高等教育・学術研究機関における情報通信技術（ICT）を利用した教育・研究・経営の高度化が進んでいる現状に鑑み、DXをふまえたICT環境の更なる充実を図るため、PC教室更新、AV設備の改修等環境の整備・充実を継続的に実施する。
- ・老朽化した設備が増加する中、将来の財政状況も見通しつつ、安全性を最優先として中長期計画に沿って教育環境の整備を進める。

◇資金収支予算

(単位：千円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増・△減
収入の部合計	31,565,227	30,848,523	716,704
当年度資金収入	25,577,904	24,577,864	1,000,040
前年度繰越支払資金	5,987,323	6,270,659	△283,336
支出の部合計	31,565,227	30,848,523	716,704
当年度資金支出	26,425,004	24,861,200	1,563,804
翌年度繰越支払資金 (前受金を除く翌年度繰越支払資金)	5,140,223 (3,976,739)	5,987,323 (4,851,465)	△847,100 (△874,726)

◇事業活動収支予算

(単位：千円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増・△減
教育活動収支差額	177,101	28,425	148,676
教育活動外収支差額	4,072	8,446	△4,374
経常収支差額	181,173	36,871	144,302
特別収支差額	△6,389	25,687	△32,076
〔予備費〕	50,000	50,000	0
基本金組入前当年度収支差額	124,784	12,558	112,226
基本金組入額合計	△624,636	△154,878	△469,758
当年度収支差額	△499,852	△142,320	△357,532
前年度繰越収支差額	△3,821,813	△3,679,493	△142,320
翌年度繰越収支差額	△4,321,665	△3,821,813	△499,852

(参考)

(単位：千円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増・△減
事業活動収入合計	7,090,297	7,111,664	△21,367
事業活動支出合計	6,965,513	7,099,106	△133,593

◇収益事業予算

(単位：千円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増・△減
経常収入	33,300	34,568	△ 1,268
経常支出	45,300	30,660	14,640
経常利益	△ 12,000	3,908	△ 15,908
寄付金 (△)	0	3,908	△ 3,908
当期純利益	△ 12,000	0	△ 12,000

可 決 承 認 日

◎令和3年度跡見学園事業計画及び収入支出予算

令和3年3月23日 第424回 理 事 会
第365回 評 議 員 会

◎令和2年度跡見学園事業実績の報告及び収支決算報告

令和3年5月25日 第425回 理 事 会
第366回 評 議 員 会

跡見学園法人事務局 総務部総務課



跡見学園報 第72号 別冊

発行日 令和3年7月20日

編集 跡見学園法人事務局

発行 学校法人跡見学園

〒112-8629

東京都文京区大塚一丁目5番9号

電話 03-3941-8161

FAX 03-3941-8162

URL <https://www.atomi.ac.jp/>